

MONSANTO



第1期奨学生、浅地真木氏の志と現地での様子

第1期奨学生

浅地真木氏

筑波大学大学院 生命環境科学研究科 生物資源科学専攻、博士前期過程1年



筑波大学生命環境科学研究科とフランス・ボルドー大学、国立台湾大学等との生命環境科学研究科・ダブルディグリープログラム・グローバルフードセキュリティコースを支援する「日本モンサント・持続可能な農業を目指す人材育成のための奨学金制度」の記念すべき第1期奨学生に選考されたのは、浅地真木さんです。

受賞決定後、浅地さんは、2016年1月からフランスのボルドー大学生物学科生物&健康科学博士課程（University of Bordeaux, Faculty of Biology, Doctoral School Biological and Health Sciences）に留学されました。

この度、今回の留学に向けた志や将来の夢を語っていただきました。

日本モンサント：今回の奨学金の受賞した感想をお聞かせください。

浅地：日本モンサント社で初めての奨学金制度に採用して頂き、大変嬉しく光栄です。私も含めて留学を考えている学生の大半は資金の確保に頭を悩ませていると思います。そのような状況で奨学金を頂くことができ、感謝の言葉もありません。さらに、世界を代表する植物バイオテクノロジーの企業の奨学生として採用頂けたことは非常に光栄です。

日本モンサント：ボルドー大学では、どのような活動をされるのですか？

浅地（敬省略）：筑波大学とボルドー大学とのダブルディグリープログラム（グローバルフードセキュリティコース）の第1期生として、筑波大学からボルドー大学に留学しています。留学前半の1月～9月は、ボルドー大学教員の指導の下、フランス国立農学研究所（INRA: Institut National de la Recherche Agronomique）においてラボインターンシップに参加し、マイコプラズマの膜に関する研究を行う計画です。研究所でのコ



ボルドー大学で研究に集中する浅地氏

コミュニケーションは基本的に英語で行っていますが、現在、フランス語の講義も履修して勉強しているところです。留学後半9月から12月までは大学の講義に出席し、植物分野の専門知識を学びます。同時にそれまでの研究結果・成果をまとめ、修士論文の執筆・発表を行う予定です。

日本モンサント：ボルドー大学留学の志をお聞かせください。

浅地：日本とフランスでは言語や文化、生活において多くの点で異なる背景を持っています。そのような地で異文化に触れることで自分の可能性や能力を高められると思います。フランスへの留学を決意しました。私が活動している INRA は農学分野の政府系研究機関ではヨーロッパでトップクラスの世界でも第2位に格付けされています。そこでは多くの第一線級の研究者が働いています。そのような恵まれた環境で活動できることを非常に嬉しく思います。研究や勉学に励むことはもちろんですが、留学を通して少しでも多くのことを体験し、多くの人と出会い、様々なことを自問自答する機会にしたいと考えています。

日本モンサント：どのような目的をお持ちですか？

浅地：私には国際的に活躍し、社会に貢献できる研究者になるという目標があります。また、様々な分野でグローバル化が進行する中、研究者もその例外ではありません。専門知識や研究力を磨くことに加え、総合的な国際感覚を身に付けることを大きな目的としています。



大学近隣のレストランで友人達とくつろぐ浅地氏（左端）

日本モンサント：モンサント・カンパニーについての関心や期待などがありましたらお願いします。

浅地：世界最大の植物バイオテク企業という印象を持っています。モンサント・カンパニーは植物育種や遺伝子組換え等の技術開発を通じて、長年世界の農業バイオテクノロジーを牽引して来ました。増え続ける人口を養うためには、これからも科学技術の活用が不可欠です。また、奨学金制度や環境保全活動を通じて社会貢献をしていることも素晴らしいと思います。モンサント・カンパニーにおける、社会貢献に関わる今後の活動にも期待しています。

日本モンサント：今後の目標や将来の夢は何ですか？

浅地：農業技術を通じて社会に貢献できる研究者になることが私の夢です。将来は、農業技術の分野に様々な形で携わり、世界が抱える諸問題に食糧問題の解決を通して貢献したいと考えています。

日本モンサント：どうもありがとうございました。

浅地さんには、これからの日本の農業の振興のためにグローバルな視点で新しいモデルを提言し、実現するリーダーになるべく、現地での生活を楽しみながら、多くを吸収してきていただきたいと日本モンサントも期待しています。